

# 学習者の特性を活かす教育用メディア端末に関する総合的研究【8】

## ～「飛騨一之宮地域」における地域文化の教材化～

A general study about media terminal for education to make use  
of the characteristic of the learner in

久世 均／齋藤陽子

あらゆる文化の基礎は、地域の伝統文化にあり、われわれはこれらの伝統の先端にあつて、その伝統文化を同時代性でもって創造していくことが、文化の創造であると考えている。来るべき「成熟した時代」の日本文化を支えるものがこの伝統文化であるが、今日適切な手が打たれぬまま、それらが失われようとしている。これらの文化に対する理解が本研究の基本であり、そしてこの状態に際して、何らかの手を打つことが求められている。

ここでは、このような地域の伝統文化に関する教育を支援するための地域資料のデジタル・アーカイブにおける教育用メディア端末を利用したデータベースの構築について「飛騨一之宮地域」を例にして研究をしたので報告する。

<キーワード>

デジタル・アーカイブ, 地域資料, 伝統文化, 文化遺伝子

### 1. はじめに

伝統文化は、歴史のなかで常に同時代性ある文化として現在まで継承されてきた。それはそれぞれの地域の発展と成長とともにその形を創造的に変え、今日に継承されてきている。今回取り上げた飛騨一之宮地域文化も同様に、飛騨一之宮という地域の発展と共に創造的に変化しながら今日に継承されてきた伝統文化である。

従って、この研究は「飛騨一之宮地域」の歴史的な文化遺産をデジタル・アーカイブしたのではなく、『伝統の先端にいる現在において生活している人が創造している文化』をデジタル・アーカイブしたものであり、地域における地域文化の伝承をみたものである。そしてこのような地域文化こそが、支援されていくべきものではないかと考える。

しかし、地域の伝統文化を伝承するためには、伝統文化は地域や生活と密着した文化であるが故に、単なる資金助成だけでは伝統文化には必ずしも良い効果を生むとは限らない。伝統文化における創造と発展、これがそれぞれの地域の個性ある文化の創造であり、地域の創造、活性化の源である。全国のなかでも比較的伝統文化

が豊かに継承されている飛騨地域の地域文化が、それらを同時代性ある活動として活性化していくことで、多様で豊かな社会を創りあげることが期待される。

また、飛騨一之宮地域の魅力の再発見と地域資源の発掘を行い、地域として継承していくべき文化や地域資源を地域として再評価するとともに、受け継ぐべき文化や地域資源の発展的継承方法や活用方法を検討し、地域の活性化につなげることができる。

### 2. 伝統と文化の教育について

教育の最も大きな役割の1つに文化の継承があり、その中で地域の伝統文化は小学校教育において児童の地についた教育を進める重要な素材である。ところが、戦後、地域に根づいていた伝統・文化を基盤とした教育、さらにこれらの素材の教材化の整備もなされていなく、総合的な学習の時間や平成18年の教育基本法改正で、近年になり、見直しが始まった状況である。そこで、伝統文化の教育利用を進めるにあたり、戦後の伝統・文化の法的状況を調べ、そ

の上で教育方法の改正で、伝統・文化の教育利用の今後の方向性について検討を進めた。教育基本法の成立・改正は、教育実践に大きな影響を与えてきた。たとえば、教育基本法の改正により、「伝統・文化」は、地域の伝統文化の教育に大きな影響を与えている。

### (1) 教育基本法の改正と伝統・文化教育

旧教育基本法は、昭和 22 年に制定され、平成 18 年に新しい教育基本法として改正された。その中で、とくに、前文と第 2 条の 5 項では、新しく伝統と文化の方向性が示されている。たとえば、教育基本法の前文には、次に示すように「公共の精神を尊び」や「伝統を継承し、新しい文化の創造を目指す教育を推進する」と伝統・文化に関する教育の事項が言及されている。

### (2) 学習指導要領における伝統・文化教育

新学習指導要領については小学校では平成 23 年 4 月から、中学校では平成 24 年 4 月、高等学校では平成 25 年度入学生から全面实施となる。改訂の基本的な考え方としては教育基本法の改正等で明確になった教育理念を踏まえ教育内容の見直しを図っている。

また、教育の目標に新たに規定された内容として、「伝統と文化の尊重、それらをはぐくんできた我が国と郷土を愛し、他国を尊重、国際社会の平和と発展に寄与」が位置づけられている。さらに、教育内容の主な改善事項としては「伝統や文化に関する教育の充実」として、

- ことわざ、古文・漢文の音読など古典に関する学習を充実（国語）
- 歴史教育（狩猟・採集の生活や国の形成、近現代史の重視等）、宗教、文化遺産（国宝、世界遺産等）に関する学習を充実（社会）
- そろばん、和楽器、唱歌、美術文化、和装の取扱いを重視（算数、音楽、美術、技術・家庭）
- 武道を必修化（保体/中 1・2）
- 総合的な学習の時間の学習の例示として、地域の伝統と文化を追加（小）

となっている。しかし、これらの事例は、戦後の 60 年以上の「伝統と文化」の教育実践の空白を埋めるまでに至っていない。さらなる研究が必要である。

### 3. デジタル・アーカイブによる地域教材

地域情報は地域の財産であり、地域で活動する住民にとっても、過去と未来をつなぐ知の集積として記録され、活用され、発信される価値を持つものである。それらが、地域のコミュニティをより豊かにし、新たに人と人、人と地域をつなぐ触媒として地域に輝きをもたらす。

各々の地域では、有史以来、経験し、蓄積してきた多くの歴史的事象が存在する。その中でも、地域の人々により、時には労力を出し、資金を出し、精神を発揮して、これら歴史的事象を、祭りをはじめ、民俗芸能、遺構、伝承、あるいは町並みなどとして、大切に守り育て、受け継いできているものがある。このように数ある地域の歴史的事象の中で、地域の人々によって受け継ぎ、守り育てられてきた「地域固有の精神文化」こそ「文化遺伝子」である。そこで、様々な地域文化のうち、（主に明治期以前から）長い年月を経て、守り受け継がれてきている「地域固有の精神文化」に着目し、これを「文化遺伝子」と定義した。地域の文化遺伝子（ミーム (meme)）とは、文化を形成する様々な情報であり、人々の間で心から心へと伝達や複製をされる情報の基本単位を表す概念で、動物行動学者、進化生物学者であるリチャード・ドーキンスが、1976 年に The Selfish Gene（邦題『利己的な遺伝子』）という本の中で作られたものである。

地域の歴史・祭り・文化資源等が現在にまで残り、受け継がれているのには理由があり、受け継ぎ、守り育てるために様々な努力（取り組み）がなされている。このように「文化遺伝子」が地域住民の中で共有できている地域においては、時代が変わり、社会システムが変貌しようとも、今後とも個性ある人づくり、地域づくりが継続できるものであると考えられる。更には、地域の文化遺伝子を持った人々により地域づくりが行われていくことは、これからの持続可能な社会の形成、豊かな人の感性や作法を生み出すばかりではなく、地域コミュニティの再生・活性化、観光や新産業といった地域振興にも大きく寄与できるものである。ここでは、地域情報を収集し、データベース化することにより、地域文化の教材化を行った。

### 4. 「若者による一之宮地域文化の再発見事業」

「地域」とは、地理的な条件や気候的条件、いわゆる風土とそこに住む人々の資質や活動により成り立っているものである。しかし、人の移動の高速化、広範化が進むとともに、情報交換手段の高度化が進み、「地域」という枠がなくなり、地域の空洞化が深刻化してきている。そのため、これまで地域で育まれてきた地域の誇りやコミュニティが希薄となり、さらなる空洞化が進むという悪循環に陥っている。その打開策として、地域の独自性や創意工夫による地域づくりが進められているが、その際、重要なポイントとなるのは、地域がこれまでに守り受け継いできた文化遺伝子である。文化遺伝子を再発見し、守り受け継ぐことにより、いわゆる地域に根ざした「文化資本」としての付加価値を生み出し、地域活力の再生へ活用することで、地域住民が住みよいわが町を誇りに思い、地域外からの交流人口を呼び込むことができる有効な手段であると言える。そこで、飛騨一之宮地域で「若者による一之宮地域文化の再発見事業」を企画することになり、本学がその事業を支援することになった。

この「飛騨一之宮地域」は、高山市のほぼ中央に位置する「高山市一之宮町」で、この町の南にそびえる位山山脈は中部日本の分水嶺を成しており、一方は宮川・神通川を経て日本海へ、もう一方は飛騨川・木曾川を経て太平洋へ注いでいる。飛騨人の心の拠り所「飛騨一宮水無神社」、千年の時を越えて咲き誇る「臥龍桜」が有名である。

この飛騨一之宮地域の歴史・文化・産業等を大学生の視点で見ることにより、飛騨一之宮地域の魅力の再発見と地域資源の発掘を行い、地域として継承していくべき文化や地域資源を地域として再評価するとともに、受け継ぐべき文化や地域資源の発展的継承方法や活用方法を検討し、地域の活性化につなげるために、平成22年度から3か年にわたり、飛騨一之宮地域文化の再評価と、地域の活性化について「若者による一之宮地域文化の再発見事業」を実施している。

本事業は、次のような計画で実施を計画している。

#### 【平成22年度事業（実績）】

- (1) 地域文化のデジタル・アーカイブ化

- (2) 地域文化に関する住民の意識調査

- (3) 地域文化交流会の開催

#### 【平成23年度事業】

前年度事業による取りまとめた地域の文化や資源について、大学生と地域住民とによるワークショップ等を開催する中で、地域が主体となって再評価し、地域として継承していくべき文化や地域資源の発展的継承方法を検討、試案を作成し、共同の報告書としてまとめる。

- (1) 地域デジタル・アーカイブの作成

- (2) 地域・大学協働による地域文化・資源の再評価、継承・活用方法の検討・試案作成

- ・地域住民とのワークショップの開催

- ・地域文化・資源の再評価

- ・地域文化・資源の継承・活用方法の検討、試案作成

- (3) 報告書の作成

#### 【平成24年度事業（計画）】

前年度事業により検討した地域文化・資源の発展的継承案や活用案の中から、大学生と地域との連携により、具体的に組み立てるメニューを選択・事業化し、実証実験を行う。

- (1) 地域の Web 制作

- (2) 飛騨一之宮地域文化のガイドブックの作成

- (3) デジタル教科書の開発

平成24年度は、これらの「飛騨一之宮地域」における地域資料の記録から Web の作成、ガイドブックの作成、デジタル教科書の作成を計画している。

## 5. 地域文化デジタル・アーカイブ開発

地域情報は地域の財産であり、地域で活動する多様な主体にとっても、過去と未来をつなぐ知の集積として記録され、活用され、発信される価値を持つものである。それらが、地域のコミュニティをより豊かにし、新たに人と人、人と地域をつなぐ、触媒として地域に輝きをもたらす。このために地域情報の基本となる地域資料のデジタル・アーカイブを行った。

飛騨一之宮地域文化資料（活動）のデジタル・アーカイブの基本構成として、次の4つのカテゴリーに分けてアーカイブした。

- (1) 生活文化（衣・食・住）

- ①先人・教え
  - ・地域ゆかりの偉人の業績や教え.
  - ・歴史上の人物のゆかりの地であること.
  - ・地域ゆかりの組織（例えば地域の歴史文化を継承する人々など）.
  - ・歴史上の人物個人ではなく、これら人物を多数輩出してきた地であること.

- ②地域文化
  - ・地域独自(雪国)の生活文化を現在まで受け継いでいること.
  - ・地域の長い間受け継がれてきた教えを現在まで受け継いでいること.
  - ・歌（和歌や俳句，連歌など）が多数読まれた地であることや，これら文化に関連の深い地であること.

**(2) 伝統文化（獅子舞・祭り・水無神社など）**

- ①出来事・発祥
  - ・歴史のターニングポイントとなるような出来事が起こった地であること，またはその出来事に由来する史跡等が存在すること.
  - ・文化的な事項（音楽など）の発祥の地であること.
- ②拠点・要衝
  - ・各時代における地域の中心・拠点として繁栄した地であったこと.
  - ・交通や物流の要衝として繁栄した地であったこと.
- ③町並み・史跡
  - ・歴史的な建造物や構造物，町並みが残っている，またはこれら資源を守り受け継いでいること.
  - ・歴史上価値の高い史跡を有している，またはこれら史跡を多く有していること.
- ④伝統芸能・祭り
  - ・風俗慣習や祭礼行事，民俗芸能を現代まで継承していること.
- ⑤神話・伝説
  - ・日本創生の神話や諸伝説にかかわる地であること，またはその神話・伝説に係わる史跡等が存在すること.

**(3) 自然（グリーンツーリズム・臥龍桜・巨石・巨木など）**

- ・地域の自然として，臥龍桜や巨石，巨木
- ・雪国の自然の風景や風物

**(4) 産業（農業・林業・かさ・まゆびな・工芸品など）**

- ・日本を代表する産業や伝統工芸が興った地であること.
- ・近代産業の中心地であること.

この地域情報を基に，先に示した地域の文化遺伝子の各基本情報(メタ情報)をまとめることが必要となる。

そのために，文化遺伝子の基本情報を記入する基本情報シートを作成し，静止画や動画情報とともに記録，管理することにした。

表1 基本情報調査票

調査項目	飛騨一之宮獅子舞
位置情報	緯度+36° 5' 21.20", 経度+137° 14' 50.56"
調査内容 (①②は小学校3・4年生が分かる言葉で表記，③は教師が参考にするを想定)	
①歴史 (作られた時代，これまで の歩みなど)	・金蔵獅子・振獅子は古くから伝承されている。 ・伊勢神楽の獅子は幕末に伝わったと言われている。
②特色	種類：金蔵獅子・振獅子（男）・伊勢神楽の獅子（女）の三つ 金蔵獅子・振獅子は，北陸系のものである。
③関連資料 (本やWeb， 報告書など。 村史○ページ)	宮村史 P355～P360 

**6. 地域資料のデータベース**

特定の地域資料のデジタル・アーカイブを行うためには，岐阜女子大学で提案している地域

資料データベース記録項目を基準としてメタ情報を作成することが重要である。

地域資料デジタル・アーカイブを行う場合、地域の地図などを利用しての位置情報に関するデータは重要である。また、新しい町づくりが行われたときに、新しい町の区画整理された場合に、地域資料に対しての戸籍を残していくことが大切である。その資料が「どこで」撮影されたか、またはどこに存在しているのか、つまり場所という領域を示している。このように、地域資料を記録するためには、いくつかの領域に従って纏めるべきである。

この視点で、地域資料の記録に必要な領域として、「何を」「どこで」「いつ」「どのような方法で」「だれが」「許可」（を得て撮影記録したか）、を取り上げ、設定した。これら各領域に属する情報を記録することにより、後世への地域の記録の継承、今後の地域教育活動、伝統文化学習、さらに提示資料の開発や共有を行うなど、適切な地域資料の利用に供することができる。



図5 飛騨一之宮地域データベース

そこで、地域資料を記録するデータベースの記録項目にあたっては、これらの視点で整備し、次のような記録項目の検討を行い、試案を作成している

また、近年、デスクトップ型やノート型のパ

ソコンと並んで、携帯性に優れた高機能な情報端末（以下、教育用メディア端末と呼ぶ。）が開発されてきている。このような教育用メディア端末を活用することにより、教室の内外を問わず授業での活用が可能となるだけでなく、家庭や地域においても学校と同様の教材で学ぶことができるようになる。また、筆者は従来からアーカイブ手法を用いた学習者の目的に応じた多視点映像教材を用いた授業の実践的研究を進めてきた。それは、小学校の授業を改善するためのものであり、そのために新しい映像教材作成手法も開発してきた。

文部科学省は、「教育の情報化ビジョン～21世紀にふさわしい学びと学校の創造を目指して～」において「デジタル教材の開発」と「デジタル教材の流通」での課題について提言している。そこで、本研究において、教育用メディア端末の簡易データベース機能を活用し、飛騨一ノ宮地域データベースを作成した。

データベースには、教育用メディア端末としてiPadのアプリであるBentoを利用した。Bentoは、個人向けデータベースアプリケーション「FileMaker」を作っているファイルメーカーが、Mac、iPhone、iPod touch、iPadなどで共通した情報管理ができるソフトとして作り上げたもので、FileMakerはパソコンの知識がそれほどない人でも、簡単にデータベース入力画面や、自動計算フィールドなどを簡単に作れるデータベースアプリケーションである。それをさらに簡便に扱えるように洗練させたのがBentoとすることができる。

## 7. 小学校における地域文化情報の管理

デジタル・アーカイブ化のために収集記録したデジタルデータの一時（素材）保存としてItem Pool、各素材について①長期保管（保存）②短期保管（保存）管理用の素材の適否を評価・選定し、蓄積するItem Bankとした。（これらのItem Pool、Item Bankは1960～1970年代に用いられた概念名称である。）

これまでのデータベースとして処理機能で表現するのではなく、デジタル・アーカイブとしてのファイルの概念として長期・短期保存、保管について検討をする。（そのデータ処理としては、データベース等の今後とも発展するであ

う各種処理を必要に応じて用いる。) Item Pool、長期・短期保管用の Item Bank について、各分野でどのようなメタデータが必要か、その記録項目の共通化が必要である。

#### ①Item Pool

Item Pool は、収集したデジタルデータの一時保存のためのファイルを用意する。そのメタデータはデータ収集を中心にした著作権、プライバシーの課題や撮影・記録、位置情報・環境情報、また文化資料の収集管理として必要なメタ情報の構成が重要な研究課題となる。とくに、多様な地域の資料を各地で収集記録し、それを全体的な利用をはかるためのメタデータの標準化が必要である。

#### ②Item Bank の長期保管

Item Bank の長期保管は、著作権等が問題にならなくなる 100 年以上の後に何をどのようなメタデータで保管しておけばよいか検討が必要である。

#### ③Item Bank の短期保管

Item Bank の短期保管は、第一に利用者の観点からのメタデータの構成が必要で、現状の管理者の都合でのメタデータから利用者のニーズを考えた新しいデジタル・アーカイブのメタデータの検討が必要である。

## 8. おわりに

地域の人々の中に生きている伝統は、その心の伝承をそこから生まれる新しい文化の創造へいかに進めるかが教育に課せられた大きな課題でもある。たとえば、沖縄では琉球時代からの歌、曲、リズムが、今この地の人々に伝承し、全国、さらに世界で活躍する人々に歌われている歌がある。ここに、地域の文化の伝承、さらに人々のおおらかな心、生きる力、生き抜く力を見ることができ、小さな枠にとらわれる者にとって、今の教育とは何かと考えさせられる。

以上、デジタル・アーカイブは、文化財、文化活動を美しい映像や資料で後世に残すことも必要であるが、現実を正しく後世に残すことが最も重要である。また、これらのデジタル・アーカイブ化された映像を使った“知”の伝承サイクルにより新しい文化の創造へ発展をさせる機能を持つ必要がある。

この論文・資料の作成にあたっては、岐阜女

子大学の後藤忠彦教授の指導によりで行った。また、高山市一之宮支所長である能登部佳幸氏には撮影の機会を与えていただいたことに厚く感謝の意を表します。